



高梁川流域学校

高梁川流域連携中枢都市圏事業

高梁川流域学校

歩いて見て聞いて、つないでつくる環境と文化

高梁川ミーティング

～高梁川流域の昨日と明日～

2003年の緑の日に県産材を活用した家作り運動から始まったGREEN DAY運動は、流域の水と暮らしを考える環境保全活動に展開し、2010年から持続可能な流域社会の発展に資する人材育成活動になりました。そして、2015年6月に法人化し「高梁川流域学校」として、倉敷市がまとめる流域自治体の連携中枢都市圏事業に認定され、流域の自然、歴史文化、産業などを学びとして、学校教育を補完する地域教育を取り組んでいます。

本ミーティングでは、「高梁川流域の昨日と明日」をテーマとして、午前の部では、これまでの活動及び設立初年度の高梁川流域学校の取組みの報告及び評価を行い、午後の部では、大学による持続可能な流域社会づくりをテーマとしたシンポジウムを開催し、流域の明日について一緒に考えます。

プログラム

【午前の部】10:00～12:00

- 学校長挨拶:神崎宜武
- 高梁川流域学校からの活動報告
平成27年度プログラム構成・実施状況の説明
- 個別プログラムの報告
 - ・「備中志塾」・「緑のインター事業」・「高梁川トレイル」
 - ・「備中で暮らす匠(先人)への「聞き書き」」
 - ・「水島コンビナートの進化」・「高梁川流域学校 初等部 あちのもり分校 冬の教室」
- 【コメンテーター】
川嶋直氏（公益財団法人日本環境教育フォーラム理事長）
瀧澤寿一氏（NPO法人共存の森ネットワーク理事長）



【午後の部】13:00～15:30

- 学校長挨拶:神崎宜武
- 基調講演 13:05～13:45
演題:「川の声に耳を澄ます 一滴が集まりそして海へ」
講師:大原あかね氏（公益財団法人大原美術館専務理事、くらしき作陽大学特任准教授）
- シンポジウム:「持続可能な高梁川流域の社会づくりの試み」 14:00～15:30
 - ・岡山大学地域総合研究センター 特任教授 石丸香苗氏
 - ・岡山県立大学 教育開発センター 特任教授 田内雅規氏
 - ・吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科3年 高山真紀子さん
 - ・倉敷芸術科学大学 非常勤講師 岡崎遼太朗氏
 - ・くらしき作陽大学 大学院音楽研究科 演奏芸術領域2年 川野七彩さん
- 【コメンテーター】
大原あかね氏（公益財団法人大原美術館専務理事、くらしき作陽大学特任准教授）
川嶋直氏（公益財団法人日本環境教育フォーラム理事長）
瀧澤寿一氏（NPO法人共存の森ネットワーク理事長）
- 【モダレーター】
大久保憲作氏（倉敷木材株式会社代表取締役、一般社団法人高梁川流域学校代表理事）



日時 平成28年2月6日(土)10:00～15:30

場所 倉敷中央病院大原記念ホール（〒710-8602 岡山県倉敷市美和1-1-1）

主催 一般社団法人 高梁川流域学校（TEL:090-4800-1110）

後援 高梁川流域連盟、公益財団法人有隣会、倉敷市教育委員会、
山陽新聞社、倉敷コミュニティメディア、高梁川流域情報ネットワーク

■ 参加申込用紙（下記の必要事項の上FAX・メールでお送り下さい）【FAX】050-3588-6427
【E-mail】takahashi.river1506@gmail.com

| | | | |
|---------------|---------------|----------------------|----|
| 参加者①お名前（フリガナ） | 参加者②お名前（フリガナ） | 参加者③お名前（フリガナ） | 所属 |
| 住所 〒 | | 備考（連絡先携帯電話番号、Eメールなど） | |

大原 あかね 氏

公益財団法人大原美術館専務理事
ぐらしき作陽大学特任准教授

1967年 東京で生まれる。幼少期を京都で過ごす。
1991年 一橋大学経済学部卒
1993年 青山学院大学大学院国際政治経済学部研究科終了
2000年5月 大原美術館専務理事
他に、(公財)有隣会副代表理事、(社福)若竹の園評議員などを務める。

パネリストプロフィール

岡山大学地域総合研究センター 准教授

石丸香苗 氏

岡山大学地域総合研究センター准教授。
京都大学大学院農学研究科博士課程単位認定退学。農学博士。アジアや南米などで地域住民の森林利用の研究を行う。

岡山県立大学 教育開発センター長 特任教授

田内雅規 氏

医学博士。厚生省国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所感覚機能研究室室長、岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科教授、大学院教授を経て、現在同大学大学教育開発センター長。
地域活動では、岡山県福祉まちづくり条例策定にかかり、倉敷市バリアフリー市民会議議長を務める。

吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科3年

高山眞紀子 さん

1994年生まれ。島根県津和野町出身。吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科 3年在学中。

社会に働きかけができる種々の能力を身につけるため、若者自らが企画立案し運営をおこなうワークショップ「エデュカーレinたかはし」に参加し、積極的に地域活性化に取り組んでいる。

倉敷芸術科学大学 非常勤講師

岡崎遼太郎 氏

デザイナー。若者主体のメディアプロジェクトSTAR*代表。1988年生まれ、高知県出身。倉敷芸術科学大学芸術学部を卒業後、フリーのデザイナーとして活動。
岡山を拠点に県内外のグラフィック、WEBなど多岐に渡るデザインを行う。若者主体のフリーペーパー「STAR*」では地域と若者を繋げ、若者自身の新たな発見に繋がる企画・運営を行っている。

ぐらしき作陽大学 大学院音楽研究科 演奏芸術領域2年

川野七彩 さん

愛媛県伊予郡松前町 出身。愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻ピアノコースを 卒業。現在、ぐらしき作陽大学大学院音楽研究科演奏芸術領域2年在籍。

玉島市民交流センターでのヤングコンサートに3回出演。「第70回 春の院展・倉敷展」ウェルカムコンサート、「生誕120周年 池田遙邨展」ウェルカムコンサートなど多数演奏会に出演。

平成27年度(第1期)高梁川流域学校事業一覧

| ■ 事業名 | ■ 事業概要 | ■ 開催日 |
|---|---|--|
| 高梁川流域学校設立記念シンポジウム | 高梁川流域学校の活動への理解促進と活動に参加していく方々との交流を目的とした分科会と高梁川流域学校校長の民俗学者神崎宣武氏による基調講演、シンポジウムを実施し、約200名の参加があった。 | 6月28日 |
| 高梁川ミーティング | 午前中は、平成27年度の高梁川流域学校の実績報告を行い、午後は流域の大学の地域づくり活動を中心に、これから地域づくりについて、基調講演とパネルディスカッションを行う。 | 16年2月6日 |
| 高梁川の川ゴミ調査 | 高梁川流域連盟の一斉クリーン行動事業の中で、倉敷第一中学校生徒60名及び市民活動グループと協働して、川ゴミの收拾、分類調査、その発生源の仮説を通して、環境保全に対する意識向上の重要性について学んだ。 | 11月29日 |
| 水島コンビナート関連勉強会 (水島コンビナートの進化) | 水島コンビナートの歴史を学び、最新の工業技術、特に水素社会が創る未来社会について、コンビナート企業の方々やOBの方々からリアルな講義、コンビナート見学などのツアーを実施する。 | 16年2月16日 |
| 「高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発」事業 | 高中国自然歩道、岡山県歴史の道調査報告書を元に調査を行いルートマップ制作し、地域住民の方々の多大なる協力によって、独自に高梁(2ルート)、倉敷(1ルート)の3つのトレイル開発を行い、そのモニターツアーを実施した。 | 10月7日、11月8日、12月5日 |
| 高梁川マルシェ | 第8回目となるマルシェは、県民文化祭のメインプログラムとして、国指定重要文化財の大橋家住宅と阿知2丁目公園をつなぐ阿知町通りで開催し、2日間で約2000名の集客を得た。海外の観光客も多く、流域の食やモノづくり文化を発信することが出来た。 | 10月31日～11月1日 |
| SAVE JAPANプロジェクト | 損保ジャパン日本興亜(株)と協働して、レッドデータブックに指定されている高梁のブッポウソウ、総社の希少な淡水魚、新見のウスイロヒヨウモンモドキの観察及びその生態系を学び、延べ127名の参加者と一緒に環境保護活動を行った。 | 6月16日、6月20日、10月25日、11月7日、12月5日 |
| 地産地消・食育クラス | 料理研究家の指導の下に流域の優れた食材を活かして流域の伝統食を今に伝えるプログラムを企画実施した。2月から月に1回のペースで子育て世代の親を対象に料理や試食を楽しむプログラムを実施する。 | 16年2月下旬 |
| 備中で暮らす匠(先人)への「聞き書き」 | 高校生18名は笠岡諸島六島の古老人へ、大学生3名は備中地域の伝統芸能演者を訪ね、「技・人生など「聞き」話しことばだけで文章にまとめ冊子を作成する。研修会、成果発表会など延べ180名が参加した。 | 6月26・27日、7月25日、8月4日、7・8日、19日、20日、9月12日、11月21日、12月23日 |
| 倉敷市文化遺産を活かした地域活性化事業 「備中邦楽の里フェスタ」 | 倉敷美観地区の歴史的建造物を活用して「備中邦楽の里フェスタ」を開催し、10名・2団体の出演をもって、1,000名を超える聴衆に、良質な邦楽を体験して頂いた。また、子ども向けの和楽器体験会や、岡山県指定の民俗芸能である「しゃぎり」を 伝承する子どもたちとプロの邦楽奏者との交流事業を実施した。 | 10月3日～10月4日、8月22日、10月3日 |
| 倉敷市文化遺産を活かした地域活性化事業 「備中志塾」 | 「国指定重要文化財大橋家住宅にて、民俗学者神崎宣武氏の備中のよもやま話をコンセプトに、備中の地理、生活文化、神楽、旅、食など、今年8月～12月まで毎月1回、計5回、延べ150名の参加者が備中の志を学んだ。 | 8月19日、9月17日、10月15日、11月19日、12月18日 |
| 三世代交流型モノづくり事業 備中の匠(たくみ)に習う(子ども備中志塾) | 夏休み宿題応援団として、幼児～小学生を対象に、地域で活躍するアーティストから本格的な手法を学び時間をかけて作品を作った。3日間の参加者数190名(来場者数は600名)。 | 8月10日～8月12日 |
| 『備中no町家deクラス』 (企画運営:備中町並みネットワーク・おかやま県民文化祭) | 「町家で暮らす・懐かしい未来」をテーマに、備中地域に残る、文化財や「町家」で伝統的な生活文化を参加・体感できる46のプログラムを展開、2200人が参加した。 | 10月23日～11月3日(12日間) |
| 緑のインターン事業 | 高梁美しい森を実践フィールドとして「森の健康診断リーダ養成」「林地残材搬出講習」を実施し各回約20名の参加。今後2月には、キノコ採取を目的とした森づくりのための「マツ林整備」、林業機械の安全使用を目的とした「伐木等(チェーンソー)の特別教育及び刈払機取扱い安全衛生教育」を開催する。 | 9月27日、11月8日、16年2月13日、2月20～22日 |
| 高梁川流域学校 初等部 あちのもり分校 冬の教室 | 豊かで多様な自然の保全・再生、自然調和型技術の利用の促進、自然とのふれあいの場や機会の確保等を図ることを目的に、地域のさまざまな団体・個人が協力して開催する。 | 16年1月31日 |
| 高梁川流域学校学生未来コンテストKoduti | 「ワクワクして参加したくなる環境学習のアイデアとは?」「水島コンビナート」を含む水島地域全域をフィールドとして、公募した高校生・大学生に小学生が楽しみながら学べる環境学習プランのアイデアを提案してもらいコンテストを実施する。 | 16年2月5日～2月7日 |